

## 当院血液透析患者における認知症の経過と生命予後

医療法人衆和会 長崎腎病院

○宮崎沙弥香 中村麻美 白井美千代 林田征俊 丸山祐子 河津多代 久原拓哉 澤瀬健次 原田孝司  
船越哲

### 【目的】

当院において2016年と2018年に認知機能検査(mini-mental state examination ; MMSE)を実施し、認知症の経過について検討した。

### 【方法】

当院透析中で、2016年3月時点で65歳以上でMMSEの実施について同意を得た181名に検査を実施し、2018年9月にMMSEと血清データが追跡可能であった87人を対象とし、1群:正常 53人、2群:軽度認知症の疑い 21人、3群:どちらかという認知症の疑いが強い 13人、の3群に分けて比較した。

### 【結果】

2016年の結果は1群91名(平均年齢72.9±7.0歳)、2群47名(平均年齢77.8±6.0歳)、3群43名(平均年齢81.4±6.7歳)であった。2016年時の1群は2018年に76名が生存(80.9%)していたのに対し、2群では36名(55.3%)が生存、3群では16名(37.2%)の生存に止まった。1群・3群においてMMSEの点数が有意に低下し、UIBC、ChE、アミラーゼ、尿酸、K、Cl、血清P、Hbが有意に低下していた。1群・2群においてβ2MGは有意に上昇し、GNRIは有意に低下していた。

### 【結論】

血液透析患者における認知機能の低下と死亡率との関連が示唆された。認知機能低下には栄養状態が関与している事が示唆され、β2MGの上昇も何らかの関連があるのかもしれない。